

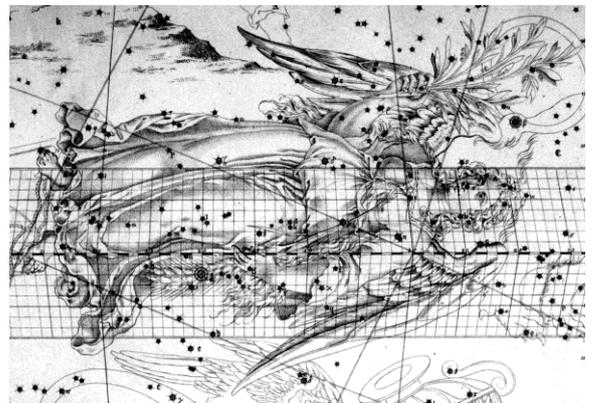


意外に見られないおとめ座

春から夏にかけて見られる「おとめ座」は黄道12星座の1つでもあり、お馴染みの星座でしょう。面積の広い星座で、1294平方度もあります。全天で占める割合はおおよそ3.1%です。これは、現在使われている88個の星座では、うみへび座について2番目に広い星座です。

ギリシャ神話では大神ゼウスの姉で農業の女神デメテル、またはゼウスの娘で、正義の女神アストライアと言われます。プラネタリウムでは、一人二役の女神様の星座と紹介することがあります。

おとめ座(のスピカ)が南中する(南の空高いところにくる)時刻と、その時期の日没の時刻の表を見ると、見えるようになってから南中するまでの時間がどんどん短くなっているようすが分かります。



おとめ座の星座絵

John Bevis (1750) Uranographia Britannica より

スピカの南中の時刻	日没の時刻	日没から南中までの時間
4月1日 0時30分	18時00分	6時間30分
5月1日 22時30分	18時30分	4時間
6月1日 20時30分	18時50分	1時間40分
7月1日 18時30分	19時00分	1時間30分

おとめ座が南中する時刻は1か月で2時間ずつ早くなっています。ところが、日没の時刻がどんどん遅くなるので、日没から南

中までの時間は、もっと短くなります。おとめ座に限らず春の星座は、あっという間に沈んでしまう感じがします。反対に、秋の星座は長い間空に見え続けるように感じられます。短い時間ですが、今夜晴れたらおとめ座を探してみてください。